



花さき山

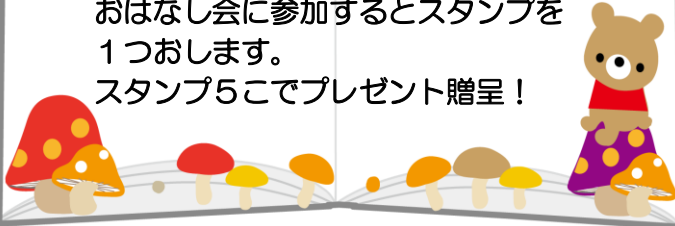
タイトル文字: 滝平二郎



おはなし会

2月 14・21日(日)
14:00~14:30

★スタンプカードをお配りしています。
おはなし会に参加するとスタンプを
1つおします。
スタンプ5こでプレゼント贈呈!



ブックスタートクラブ

毎週水曜日は視聴覚室開放 day♪
(9:00~17:00)

ボランティアの方や子育て支援センターの
先生による子育て相談や絵本の読みきかせ↓
2月 3, 10, 17, 24日

※3日・10日・24日→10:00~
17日→11:00~



映画会

日時: 2月27日(土)
10:00~11:40

場所: 明野図書館 視聴覚室

内容: 「猫侍」

(上映時間 100分)

※申込み不要



おりがみで、図書館の玄関を飾ろう!

日にち: 2月28日(日)

時間: 14:00~15:00

場所: 明野図書館 視聴覚室

お申込みは不要です。当日、直接視聴覚室にお越しください。どなたでもご参加いただけます。子どもから大人まで、一緒におりがみを折って楽しみましょう!

二月はファンタジー特集!

二月はファンタジーがテーマ。この機会に読んでみませんか?

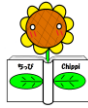
王道ファンタジーを取り揃えてお待ちしております!

ツイッター

毎日更新中!
おすすめ本やイベント情報を発信してます!

次回の花さき山は...

ぬいぐるみのおとまり会や
一日司書体験など
イベント情報盛りだくさん!



『飯田軍蔵伝』を読み、復刻編集して

—— 貴重な伝記を出版 ——

島田昌志

『天狗党筑波山拳兵百五十周年』を記念して、古河市三和資料館の『幕末の日光街道』、八千代町の歴史資料館『黒船来航』などの企画展に行きまして驚きました。天狗党に係わった人々を紹介致しますと、諸川町(現在 古河市 諸川)名主 中村三郎兵衛、森田寛隆(後の山縣三郎)、沼森村(現在 八千代町沼森)の鷲神社神主 高橋親子、野爪村(現在 八千代町野爪)の鹿嶋神社の大久保一学などです。

これら展示の中で菅谷村(現在 八千代町菅谷)の「大久保七郎左衛門」と木戸村(現在 筑西市木戸)の「飯田軍蔵」の二人に気が引かれました。

大久保七郎左衛門について『飯田軍蔵伝』では「其大砲二門を牽いて來會し、云々」と記述は少なく、『黒船来航』を見てみると、壬生藩の菅谷村名主とあります。仙台藩儒者の新井雨窓、根本兵馬等との交流からの情報収集、また、土浦の国学者色川三中に学び、更に、水戸藩士福地政次郎に師事して砲術を修め、帰郷にあたり、斉昭から大砲二門を下賜されたとあります。この様に水戸学や国学の影響を受けた知識人でありました。

「飯田軍蔵」について調べている時、郷土史講座生の萩原みち子さんから『飯田軍蔵伝』を読んでもないかと言われ、早速借りて読むこととしました。

「著者 鹿島櫻巷 校正者 飯村丈三郎」とあります。その読んだ感想を述べて見たいと思います。

先ず、「飯田軍蔵伝」は潤色、即ち「英雄・伝記」的に描かれている部分が多いと感じられました。本篇の「軍蔵の生立」や「田沼總督の大舉討伐」の場面などであります。これらの点についての評言は省くと致します。

何故、この県西地区に「天狗党」に係わった人が多かったのでしょうか。小川館や潮来館といった郷校があったのでもなく、何処から、何から情報を得て学んだのでしょうか。

係わった人々を見ると、名主、神官などが多く、中村三郎兵衛は十代で江戸に上り、儒学、漢詩等を学び、大久保七郎左衛門や高橋神官などは土浦の色川三中(国学者)等に学び、また、互いの交流による情報収集等の中から学んでいったと思われます。飯田軍蔵に於いても幼い頃から下妻藩の藩儒や江戸で学んでいます。

では何故「尊皇攘夷」を抱くようになったのでしょうか。軍蔵は天保五年(1834)の生まれ、加倉井砂山の日新塾の門に入ったのが弘化四年(1847)とあります。この日新塾で水戸の「尊皇思想」に接し、その基礎を学んだことに加え、帰郷後の嘉永元年(1848)に父に代わって名主となり、近郷近在の名主との交流から多くの情報を得、特に菅谷村の大久保七郎左衛門との交流により、確立したと思います。

次いで、飯田軍蔵の筑波義拳への加盟には、藤田小四郎との交流があります。文久三年(1863)八月に軍蔵を訪ね多くを語り合ったとあり、その後も何度か会っているとあります。

加盟を強く決意したのは、徳川斉昭の急死が軍蔵の心の中にある「勤皇愛国」が拳措に就かせたのではないかと思います。この軍蔵の「勤皇愛国」という精神が那珂湊の戦いまで支えていたのです。だが、田沼意尊の幕府軍、諸生軍との戦いとなり、他藩からは「水戸藩の内乱」と云われる戦いを軍蔵はどのような気持ちで戦っていたのでありましょうか。

『飯田軍蔵伝』を読むというよりは難解な「熟語」調べが中心となりました。この本の内容を分かりやすく、誰にも手軽に読んでもらうため思い切って復刻・編集・校注を施しました。

天狗党拳兵と飯田軍蔵について好個の歴史書になるでしょう。

(郷土史家・写真家 しまだ まさし)

